



村の花「スカシユリ」・村の木「クロマツ」の観察会

近年はほとんど見掛けなくなった自生のスカシユリを、日本原子力研究開発機構の敷地内で、自然調査員の解説を交えながら観察します。

また、松枯れが進むクロマツの観察も行います。この機会にぜひご参加ください。

【日 時】

7月11日(月) 午前9時～正午

【集合場所】

役場正面玄関前

【対象等】

村内在住の方(先着30人)

【講 師】

安嶋隆さん(東海村自然調査団植物部門主任調査員)

【申し込み・問い合わせ】

6月29日(水)から7月6日(水)までに、電話または電子メール(▽「観察会参加希望」▽氏名▽性別▽住所▽電話番号——を明記)で、生涯学習課文化・スポーツ振興担当(☎282-1711 内線1422 ☒ syougaiakusyu@vill.tokai.ibaraki.jp)へ申し込みください。※記入事項は、スカシユリが生育している日本原子力研究開発機構への入構手続きのために使用します。

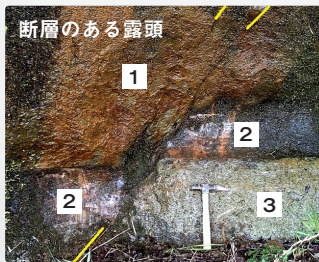
ふるさと歴史 自然を探して

東海村の断層

東海村自然調査会調査員

菊池 芳文

「断層」とは、地層や岩盤に圧力が加わった結果、地層や岩盤が割れ、割れた面がズレを起こした状態をいいます。断層には、地震を発生させる断層や地質構造の変動による断層等があります。また、動いた状態によって正断層、逆断層、横ずれ断層等に分類されます。今回紹介する断層は、「南台住宅団地」南端下の農道沿いの新川層の露頭で確認・観察したものです。写真を基に様子を説明すると、1は泥岩層、2は火砕流起源の軽石質凝灰岩層、3は1と同質の泥岩層となります。また、黄色い線の延長上にある地層中の黒い線は断層です。断層の方向は北東から南西、角度は50度程度を示しています。左右に分断された2の軽石質凝灰岩層を比べると、断層を境に右上の軽石質凝灰岩層が、左下の軽石質凝灰岩層の約30センチメートル上位に位置していることが分かります。つまりこの断層によって、各地層中で上下に約30センチメートルのズレが生じたことを示しています。そしてこの断層は、水平方向に引く



力が働くことでズレが発生した正断層に分類されます。筆者は、20数年にわたり東海村の地質調査を行っていますが、確認できた明瞭な断層は、村松層と新川層にそれぞれ1本ずつに過ぎません。しかし、村松層の断層は壁で覆われ、現在は新川層で観察できるだけです。そうしたことから、新川層中の断層は村内で観察される大変貴重な地質現象の一つということになります。現在、村では、「(仮称)歴史と未来の交流館」の整備検討が進められており、基本計画の中には、村全域をフィールドと見立てた「とうかいまるごと博物館」という考え方が盛り込まれています。この断層は、大変有用な野外観察資料や理科教材となるでしょう。断層という活断層や地震を連想しがちです。しかし、東海村の2本の断層は数百万年以前のもので、現在の地震や活断層とは全く関係ありません。また、産業技術総合研究所の「活断層データベース」にも村内と周辺の活断層の記録は存在しません。